

躯体工事の割合（設備工事も含む全体工事との対比）について

平成21年2月27日

躯体工事とは（土工事・杭工事・コンクリート工事・型枠工事・鉄筋工事・鉄骨工事）

○平成12年度リファインの共生の森建設—13.4%（実績）

○平成15年度リファインの福中体育館—13.4%（実績）

○昭和47年度新築の市町村会館建設—34.4%（実績）

○交流センター2（中公）—4.7%（現在の設計）

○交流センター1（市町村会館）—35.0%（現在の設計）

当初計画約15～20%程度

○現在 ホールを新築した場合（山下設計の実績）—30～35%程度

耐震改修判定が、姉歯事件以来より厳しく安全性を追求されるようになり、当初、本工事の交流センター1の躯体工事に見込んでいた金額は、予想を大幅に上回り、新築のホールにおける躯体工事の割合と変わらない比率を示すようになり、当初説明していたリファインは安くつく・工期も短くてすみ、環境にやさしいという考えは覆されてしまいました。

よって、これだけ新築と変わらないような費用を躯体工事にかけるとすれば、リファイン工法で行うとしておりましたが、入札不調の原因にも挙げていますように、特殊な工法なので、単価の相違及び見えない部分の安全率の計上の仕方などいろいろ問題も多いようなので、このまま入札をおこなってもまた不調になると思われるので、減額するところがなければ、予算の増額及び新築も視野にいれながら慎重に検討行った方がよいと考えています。